

／ ライフケアサポート情報誌 ／

# こもれび

K O M O R E B I

特集

## 大規模災害と済生会

〈DCAT活動報告〉

- グループホーム 武岡五丁目 管理者 大野 聡
- 特別養護老人ホーム高喜苑 生活相談員 上原 貴子
- 訪問入浴センター高喜苑 介護福祉士 上村 光晴
- なでしこ訪問看護ステーション 看護師 矢野 幸一



社会福祉法人 済生会 鹿児島県済生会

済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2016

vol.16

SUMMER

# 鹿児島における済生会実践論 IV

## ～ネクストクライシス(来たるべき大規模災害等危機)への備え～

雨に鮮やかさを増した紫陽花が高温多湿の日々を慰めてくれる今日この頃ですが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか？

今号のテーマは「大規模災害と済生会」です。

この度2016年4月14日以降の熊本地震は多大な被害をもたらし、6月19日現在1500回もの余震が続いています。犠牲者の方々に衷心からお悔やみ申し上げますとともに、被災された多くの方々にお見舞い申し上げます。

鹿児島県済生会では、早速熊本への被災地に人的・物的支援をさせていただき、その後も要請があればいつでも応援できる体制をとっています。

近年、大規模災害は世界中で頻度を増しつつあり、この10年を振り返っても、中国四川大地震(死者・行方不明者約8万6千人)、ハイチ大地震(死者約22万人)、2011年東日本大震災(死者・行方不明者約1万8千人)、2013年フィリピン台風災害(死者・行方不明者約7300人)等各地で多くの被害を出しています。災害大国とも称されるわが国においては、近い将来、南海トラフ・首都直下型地震等大規模災害の発生が危惧されているほか、火山噴火・水害・土砂災害等の自然災害、さらにはテロリズム等の人災も含め、国民の生命・財産基盤を揺るがす危機(ネクストクライシス)の可能性が高まっています。

特に鹿児島県は地理的にも災害発生の多い県であり、一方で災害弱者(脆弱で災害の影響を受けやすい独居・核世帯高齢者・障害者・難病有病者等)が多く、点在する限界集落等災害リスクが高く、国・地方自治体はじめ、医療・介護・福祉等サービス提供者の役割と責任は重大です。

わが国では、災害対策基本法のもとに関係各法による災害予防・災害応急対応・災害復旧復興策が国・都道府県・市町村等のレベルで進められ、また、市町村においては地域の自主防災組織による自発的な救護訓練・避難訓練等防災の取り組みも進められています。近年はさらに、各種事業者特に、ライフラインの確保関連事業や医療・介護等生命維持・生活支援維持に必要な各種サービス事業者は、災害下においても必要なサービスが提供できるよう事業継続計画(BCP)の策定・実行を推進する等被災時対策も進展してきました。

済生会地域福祉センターも医療・介護・福祉サービスの利用者様、施設等に入所されておられる方々の安全確保のみならず、大規模災害時下でも入所等サービスを継続して提供するための計画(事業継続計画、BCP)を推進していますが、これらは被災時に利用者の皆様の安全を護り、安心してサービスを継続利用していただけるよう、医療・介護・福祉事業者が当然備えておくべきことがらであります。しかしながら最近ではこれら従来の災害対策の概念のみではネクストクライシスに対応できないことが指摘され、学会提言等が始まりつつあります。

それは、住民の安全の確保・救護・事業継続(BCP)・災害復旧という支援の概念に加えて、地域住民の主体的日常的「健康生活持続」という概念とその持続計画(HLCP)が車の両輪として必要であるということでもあります。

私自身も熊本地震被災地で現在も被災者の方々の健康生活支援に携わっており、その観察の中でつぎのような示唆を得ています。①普段から日常生活において、全人的健康(身体・心・生命・社会的健康)力を高めていることが災害等に強い身体と心の力・生活力・健康生活継続力につながる②全人的健康生活力を有する地域隣人が災害弱者の被災予防・早期復旧・健康生活継続に大きく貢献すること③被災者支援の多様なサービスの中で、マッサージ等スキンシップ・足湯・アロマセラピー・ヨガ・瞑想等いわゆる伝統療法や補完代替療法が繋がり気づきと安心感をもたらす、自己と向き合うワークが破壊家屋や物品への執着から早く離脱し、受難に対する受け止め方を変え、こころの早い立ちなおし、ストレス等の軽減をもたらす傾向が伺えること。

これらのことから、今後は、①医療・介護・福祉事業者にとり事業継続計画(BCP)が必要であるように、住民にとり日常生活の場における健康生活継続計画(HLCP)が必要であること、②大規模災害対策として日常時からの被災予防力(心身・生活の災害耐力・復旧力増強)が重要であること、③被災予防力を高める日常時からの全人的健康生活の自助・互助・共助・公助が必要であるということが示唆されました。特に今後の済生会型地域包括ケアの推進には平常時とあわせて非常時をも包括し、災害弱者格差を生じさせない、地域社会資本(SC)の醸成と地域包括ケアシステムの構築が重要と痛感しています。

国連の設立70周年の今年のサミットにおいて新たに持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。これは気候変動や防災等の新たな課題への対応を含む17目標と169項目の達成基準が定められ、生産や消費のあり方等人々のライフスタイルの変更にまで踏み込んだ内容となっており、タイムリーです。

2025年をピークとして当分続く超高齢少子社会において、特に高齢者・障害者はじめ生きづらさを感じておられるすべての方々に、災害時においても安心・安全な生活を送れるよう医療福祉等事業者の役割・備えと地域における互助の仕組みづくりは勿論ですが、さらに、地域住民の心身の健康生活持続力を高め、被災対応力を備える自助・互助支援も必要であると考えられるため、済生会地域福祉センターでは今後の地域包括ケア推進の一環として、地域の皆様方と協働して、今夏からその取組を開始したいと準備中であります。その詳細は次号にて報告予定です。

社会福祉法人 済生会支部  
鹿児島県済生会 支部長  
済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子

# 自然災害と事業継続を考える

## 1.はじめに

平成28年4月14日21時26分、熊本県を震源とするM6.5の地震が発生しました。さらに4月16日1時25分M7.3の本震とされる地震により甚大な被害となりました。この地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに被災された方々に対しまして心からお見舞い申し上げます。

済生会では、いち早く本部事務局内に災害対策本部を立ち上げ、熊本県支部事務局に現地連絡事務所、熊本病院内に対策本部を設置して支援活動を開始しました。地震直後から九州地方の病院をはじめ、全国の病院で診療医療班が結成され、被災した病院で支援活動を行いました。

また、全国済生会福祉施設長会で組織しているDCAT(災害派遣福祉チーム)が初めて被災施設(熊本福祉センター)に派遣されました。

派遣期間は4月19日~5月9日の21日間、9チーム延81名が物資運搬や利用者の入浴や移動、食事支援、不安を抱える利用者さんとの話し相手等の活動を行いました。地域福祉センターからは、4月23日~25日、5月7日~9日の2チーム計4名を派遣しました。

## 2.多発する自然災害

鹿児島県は自然災害の影響を受けやすい県といわれています。

最近でも、平成22年23年と2年連続3度の集中豪雨や24年25年の台風被害に見舞われた奄美地方。平成23年には52年ぶりに爆発的噴火が発生するなど噴火活動が活発化し、噴火警戒レベル3(入山規制)に引き上げられた新燃岳。

また、26年に口永良部島新岳が34年ぶりに噴火、27年には全島避難が余儀なくされました。

さらに、鹿児島のシンボル桜島も、平成27年8月15日、山体膨張を示す急激な地殻変動が観測され、大規模な噴火が発生する可能性が高くなり、噴火警戒レベル4(避難準備)となりました。現在は、警戒レベル3(入山規制)に引き下げられています。

鹿児島県の資料によると、鹿児島湾(錦江湾)直下の地震が発生した場合、鹿児島市では多くの地域で震度6以上の揺れが想定され、一部の地域では震度7に達し、建物の全壊・消失は最大12,100棟、被害額は1兆3千200億円と想定されています。

### 3.災害発生後の事業継続

私たち社会福祉施設関係者は、災害時においても入居者や、利用者及びその家族等へのサービスを安定的に提供することが求められ、平常時から災害を見越した備えを行っていく重責を担っています。



地域福祉センターでは、災害発生時においては、特養をはじめとする施設入居者や、デイサービス等を利用している方々の安全確保を第一に考え、安全が確保された上でさらに、「利用者に対してサービスの提供を継続すること」が重要な役割であると考えています。特に特養・ケアハウス・サービス付き高齢者向け住宅・グループホーム等の施設は入居者に対して「生活の場」を提供しており、地震や火山の爆発的噴火で施設が被災してもサービスを中断することはできません。

このため、災害が発生しても最低限のサービスが継続できるように「事業継続計画」(Business Continuity Plan: 略称/BCP)の策定に取り組んでいます。

「事業継続計画」は、災害発生時の人命の安全や、物的被害の軽減だけでなく、事業の継続又は早期回復できるようにすることを目的とした計画です。

現在、鹿児島県老人福祉施設協議会が中心となって、起こりうる災害を想定した施設・事業所独自の計画策定に向けた研修を行っています。

また、県内各地域で甚大な被害を及ぼす地震の発生を想定した机上訓練を実施し、施設が被災した際の施設対策本部の初動対応およびサービス提供対応をシミュレーションすることによって、現在の状況と課題を把握し今後の改善につなげていきたいと考えています。

#### 【参考資料】

- 鹿児島県危機管理庁危機管理防災課
- 県内の災害情報
- 三井住友海上火災保険(株)インターリスク総研研修会資料
- 気象庁監修パンフレットから

**震度と揺れ等の状況(概要)**

**震度0** 人の気配を感じない

**震度1** 室内で物や家具が揺れている。揺れが強い場所では、物が倒れる可能性がある。

**震度2** 室内で物や家具が揺れている。揺れが強い場所では、物が倒れる可能性がある。

**震度3** 室内で物や家具が揺れている。揺れが強い場所では、物が倒れる可能性がある。

**震度4** ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。厚手の重い器物が、倒れることがある。

**震度5弱** 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。壁にある置物や本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

**震度5強** 物につかまらないうまく揺れる。壁にある置物や本で落ちるものが多くなる。固定していない家具が倒れることがある。揺れが強いところでは、天井の照明が落ちることがある。

**震度6弱** 立つているものが倒れる。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。揺れが強いところでは、壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。揺れが強いところでは、壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。

**震度6強** 揺れないと動くことができない。固定されているものも倒れるものがある。壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。揺れが強いところでは、壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。

**震度7** 揺れないと動くことができない。固定されているものも倒れるものがある。壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。揺れが強いところでは、壁のタイルやガラスが破損、落下することがある。

**地震が起きたら** あわてず、まず身の安全を!!

**緊急地震速報を見聞きしたら**

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 近くな、門や扉、自動販売機やビルのそば
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- 海岸でくらくらときたら高台へ
- あわてた行動、けがのもと

家庭の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

国土交通省 気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大塚1-3-4 電話 (03) 3212-8341 (代番)  
ホームページアドレス <http://www.jma.go.jp/>

## DCAT活動報告 I

グループホーム武岡五丁目

管理者 大野 聡

熊本地震災害発生から2日後の16日夕方に、「DCATとして熊本へ行ってもらうかもしれない」と声を掛けられました。

4月21日に DCATの情報共有ツールとして、スマートフォンの通信アプリ「LINE」のグループ機能ができ、現地に派遣された方からの情報やこちらからの質問がリアルタイムで共有できるようになりました。

第1次鹿児島班の現地活動は4月23日～25日の3日間でしたが、被災・復旧状況、毎日の活動内容、施設・入所者情報も手に取るように分かり、不安と緊張も和らぎ現地入りする事ができました。

高速道路もまだ復旧していない状況だったので、途中から下道を走り始めると運送トラックや自衛隊の車輛、「災害物資運搬車両」と看板を掲げた車輛などが多く、かなり渋滞していました。ブルーシートの掛けられた屋根や、傾いたり、倒壊している家屋が多く見受けられる中を現地に向かいました。

活動内容は、その日の復旧状況や余震、活動可能なメンバーなどによって刻々と変化し、入浴介助や調理、清掃、傾聴・コミュニケーション・夜間巡視・見守り・運搬業務などをお手伝いさせていただきました。

地震被害に不安を抱えているのは利用者様、入所者様だけではなく、職員さん達も不安と緊張の毎日を過ごされており、その中で私たち DCATメンバーにもお気遣いいただき本当に頭が下がる思いでした。できる事をできる人でできるだけ行っているという感じでした。

あっという間の3日間でしたが、お役に立てたか不安ですが精一杯取り組んだつもりです。

県の枠を超えて協力体制を作り、情報をリアルタイムで共有し、お互いに励ましあいながらの支援でしたが、「済生会」の大きさと団結力を身をもって体験することができました。

今回の災害派遣チームとしての情報共有、コミュニケーション、スケールメリットを、今後は自分達の事業所、センターでも活用できるように努めていきたいと思います。熊本が元気を取り戻したら現地で DCATメンバーや職員さん利用者様たちと再会したいですね!



## DCAT活動報告 II

特別養護老人ホーム高喜苑  
生活相談員 上原 貴子

介護職員災害派遣チーム(DCAT)のメンバーとして熊本へ行ってきました。

事前の報告では大きな人的、物的被害はないとのことでしたが、現地へ到着してみると建物周辺は沈下し、排水集積枡周囲には隆起も見られました。

派遣中も深夜に震度4の余震が発生し、不安とストレスを多く感じる非日常的な生活を送られている利用者様に対し、限られた時間でしたがどのようなケアが必要なのかを模索する日々でした。

具体的な支援内容としては、男女各グループホームでの入浴介助、世話人業務(朝夕食事調理補助・清掃・コミュニケーション・レクリエーション等)や傾聴、済生会熊本病院へのクリーニング品の搬入、夜勤業務(見守り・巡視・起床の声かけ等)でした。

支援初日、入浴介助を行いました。直接手が触れ合うことで利用者様の緊張はほぐれ、その後の信頼関係の構築に大きく繋がりました。

また、一人一人の顔や名前、特徴を覚えることも各人に寄り添う姿勢を表現する有効な手法であることを再確認しました。女性棟では清掃作業が多くコミュニケーションを図る時間が限られていましたが、声かけや会話を優先して行い、より安心していただけるケアが提供できたのではないかと思います。

今回の経験を通して、災害派遣において重要なことは、迅速な対応はもちろんのこと情報を共有する事だと感じました。今回はLINEを利用し各自が現状を把握し滞ることなく利用者様への細やかなケアを提供することや各業務から「今何を必要とされているのか」を理解し行動することができたと実感しています。



最後に、医療と福祉の切れ目ないサービスを必要としている被災者の方々を目の前にして、日本最大の社会福祉法人である済生会が持つ使命の重さを改めて痛感しました。今回の経験を有事の際、普段の業務においても活かしていくことをしっかり心に留め日々を過ごしたいと思います。

## DCAT活動報告 III

訪問入浴センター高喜苑  
介護福祉士 上村 光晴

5月7日～9日の3日間、済生会熊本地域福祉センターへ DCATメンバーとして災害支援活動に行ってきました。

私達が災害支援に行った時は震災から2週間程経過していたため、福祉センター職員や入居者様達も少しずつ日常の生活にもどりつつある状況であると感じました。被災後から今でも車中泊をしながら仕事に来ている職員

もいる状況であるとの説明を受けました。敷地内にも震災時の爪痕がそのまま残っている状態でした。

主に施設で生活されている入居者様の日常生活のお手伝い（食事準備・片付け、入浴見守り・一部介助、出勤補助等）を行い、その他にも福祉センター内の片づけ・清掃や救援物資の整理等の支援活動を行いました。

障害者福祉施設での経験がなく、最初は不安がありましたが、入居者様の方からも積極的に話をさせていただき、思っていたよりもスムーズに輪の中に入って行く事ができました。

入居者の皆さまと一緒に生活をしてコミュニケーションを図っていく中で、皆様は私たちの事まで気にかけてくださいましたが、笑顔で元気に見える反面、心の中には震災の恐怖や不安がまだまだ残っており、これからも心のケアが必要であると、強く感じました。

今回、済生会のスタッフが行う災害支援に参加させて頂き、人と人との繋がり大切さをあらためて感じさせられました。皆さまが1日でも早く日常の生活に戻れるよう願っております。



## DCAT活動報告 IV

なでしこ訪問看護ステーション  
看護師 矢野 幸一

初めて、被災地や被災施設を訪問するにあたり、私達がどのような活動をすることで役に立てるのかという、強い不安や緊張感がありました。

先発隊で参加したDCATメンバーから、事前に大まかな被災状況や対象者・職員の状況、業務内容などの引き継ぎをしてもらえたことや、メンバーが情報共有のために実施していたLINEに参加すること



で、日々の活動状況や対象者の状況を把握することができ、不安を軽減することができました。また、支援内容も日々変化していることを知ることができました。

現地に到着後、施設長から施設概要や対象者の特徴及び、入居者・利用者・職員の被災状況などの説明や、メンバーから懇切丁寧な引き継ぎをいただき、スムーズに活動することができました。



また、今回は2日前から参加されていた福岡県済生会のむさし苑さんが、引き続き最終日まで私たちと一緒に活動して頂いたこともあってとても心強く、強みになりました。

私達の活動内容は入居者様の生活・身体支援や施設内の片付け、支援物資の整理や作業所での作業及び利用者様とのコミュニケーション・メンタルサポートでした。

初日は、入浴介助や見守り、洗濯介助、食事の準備などの生活・身体支援を行いました。新しいメンバーに対して、入居者様も緊張した様子が伺えましたが、先発隊が信頼関係を構築していたのでスムーズにコミュニケーションを図れることができました。

2日目は施設の片付けや支援物資の整理を行いました。午後から行ったグループホームの環境整備は、入居者様にも一緒に参加して戴き、会話もはずみ楽しく取り組むことができました。

生活環境に関しては、ライフラインが回復し職員の方も職場復帰されており、震災前とあまり変わらない生活状況に戻ったことで、入居者様も落ち着いて生活されていると感じました。

身体的・精神的に特別な状況にある方はなかなか避難場所に移動して生活することが困難な状況にあります。いつもの場所で、変わらない生活を送れることの大切さや環境を整えることの重要性を再認識することができました。

また、職員の苦労や努力も大変なものであったろうと推察されました。会話の中で、余震も続いておりいつまた地震が来るのか、いつ終息するのか分からないことへの不安を感じていたのも、少しでも不安を表出できて思いを共有し、安心できる空間を提供すること、また今後もサポートを継続することも重要であると感じました。

今回DCATのメンバーとして派遣・活動させていただいたことで、日ごろから防災意識を高め、もしもの時に備えることの必要性を再認識しました。また、普段関わることのできない済生会のメンバーとの交流もできて、メンバーの思いや組織活動の強みを知ることができ刺激になりました。私自身、初めてDC

ATの存在を知りました。DCATの認知度を高め、活動支援内容の理解を深めることで各スタッフの立場で出来る活動を無理なく進めることができ、組織力で災害を乗り越えていきたいと思いました。

今回は大変貴重な体験をさせていただきました。これも、協力して下さった職場スタッフのおかげだと思います。多忙中、快く送り出してくださいありがとうございます。感謝申し上げます。ありがとうございました。

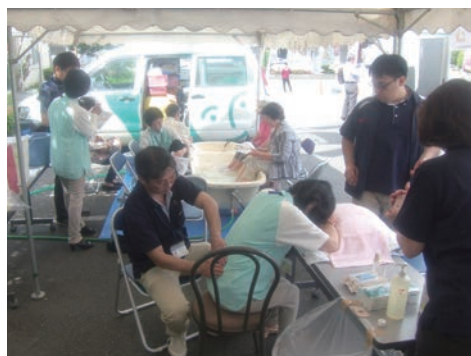


## 「福祉フェスタinたにやま」地域交流イベントへ参加

### ▶ 済生会鹿児島地域福祉センター

鹿児島市南部に位置する「谷山地区」で開催された「福祉フェスタ inたにやま」に参加しました。このイベントは「連携！地域で作る、福祉、健康、ふれあいのまち事業」をサブタイトルとした他職種連携の地域福祉イベントでした。

私たちのブースでは「健康・癒し」をテーマとし、事業所紹介を兼ね、訪問入浴車を活用した「温泉足湯」、認知症デイサービスで実施する「タクティールケア」を来場の方へ体験していただきました。来場の方々からは、「体が温まる！眠くなりそう！」等の感想や、サービスについての質問などを頂き大好評のうちに終了しました。



## 大盛況！出前スーパー

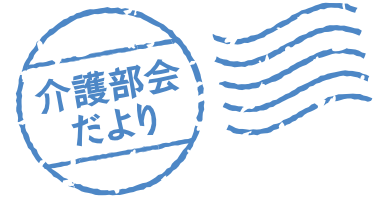
### ▶ シルバーフラット武岡台 武岡台デイサービスセンター

今年の春からケアハウスでは、「出前スーパー」を実施しています。毎月1回地元スーパーの協力を得て開かれる訪問販売は、普段なかなか買い物に出掛けられない入居者や、武岡台デイサービスの利用者らで大賑わいです。

会場の1階ホールにはお菓子や果物などの食料品、オムツ・洗剤などの日用品や衣料品などが所狭しと並べられ、皆様思い思いに買い物を楽しんでいらっしゃいます。衣類のコーナーでは、夏物の洋服を手に取り「私に似合うかしら。姿見はないの？」と訊ねられたり、会場に1台しかないレジに長蛇の列。対応に追われる店員さんを見兼ねて施設の職員が袋詰めを手伝う一幕も・・・



高齢者を支援するときに援助者に求められる7つの態度  
についてシリーズでご紹介をさせていただきます。



## 1. リラックスした自然な態度

援助する側が緊張しては、高齢者を安心させることはできません。失敗しないように慎重になると、自分の意識は援助する相手ではなく、援助者自身に向いてしまうことがよくあります。

意識が自分に向いた状態では、自然な態度で相手とかかわることができません。構えや飾り気のある態度は相手に冷たい印象を与えかねません。

心の通う温かい関係は、構えや飾りを捨てたときに初めて可能になります。



## 濟生会物語〈その十一〉

### 濟生丸出動

平成七年（一九九五）二月二七日、午前五時四十五分、近畿地方を中心として、西日本より東日本に至る広域に強烈な自信が起こった。大阪管区氣象台の観測によれば、神戸で震度七の激震。京都、彦根、豊岡では震度五の強震。

この日の午前九時、瀬戸内海巡回診療船「濟生丸」は、光の散乱する朝風の海面を、時速二〇ノットでゆっくりと航行していた。この朝濟生丸は愛媛県松山港を出港して、松山沖の離島怒和島に入港、島民の診療にあたる予定であった。

一夜明けた二八日、午前二時三十分、岡山事務所から出動要請の一報が入り、二時間後に、濟生丸は神戸に向かうことが決定したと連絡が入る。直ちに松山港を出発した濟生丸は積み込めるだけの救援物資を積み被災地に輸送してほしいとの兵庫県庁からの依頼を受け新岡山港に寄港。岡山濟生会総合病院が大急ぎで調達した医療班の医薬品、治療材料などと併せて、紙おむつ・粉ミ

ルク・生理用品などの救援物資を積み込んで出港。翌朝七時三十五分神戸港第三突堤Nバースに着岸した。救援物資は神戸市役所に引き渡した。

濟生丸班は主に最も被害の激しかった神戸市長田区の巡回診療を行い、二月十八日までの三十日間で延べ千九百七十二名の患者を診療。二月二十八日に四十二日間の救援活動を終え岡山港に帰港した。

濟生会の非常災害に関する臨時出動はかなりの頻度になっている。第一回は、大正十三年（一九一四）二月十二日の桜島爆発による救援活動に始まる。大正十二年（一九二三）の関東大震災では延べ二百十三万百五十五人の罹災患者を診療している。濟生会は創立以来一貫して国内の非常災害救護の道を歩んできた。これが濟生会の特徴であろう。

濟生会が戦後、国際的な救援活動に踏み切ったのは、昭和五十五年からのタイ・カンボジア国境の「難民医療」が最初。

〔濟生会物語（堀賢次著）から転載〕

## 〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

### 〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

### 〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

#### 特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 FAX 099-284-8252

#### シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 FAX 099-283-6871

#### 済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 FAX 099-283-4733

#### 指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 FAX 099-283-4733

#### グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 FAX 099-283-3533

#### グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 FAX 099-283-7232

#### 武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

#### デイサービスセンター 高喜苑

〔認知症対応型通所介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8254 FAX 099-284-8255

#### なでこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 FAX 099-283-4733

#### ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

#### 済生会サポートセンターなでこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

#### 訪問入浴センター 高喜苑

〔指定訪問入浴介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4731 FAX 099-283-4733

#### 訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4730 FAX 099-283-4732

#### 鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-210-5460 FAX 099-210-5560

## 編集 後記

熊本地震が発生してから3ヶ月が経とうとしています。発生後も多くの余震や、記録的豪雨で土砂崩れ等の被害が相次ぎました。自然災害の多い本県に住んでいる私たちも決して他人事ではないと改めて考えさせられました。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われます。いつ自然災害が起きてもおかしくないという意識を持って日々を過ごしたいものです。